

第3章 算数

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

数量や図形についての算数的活動を通して，基礎的な知識と技能を身に付け，日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに，活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き，進んで生活に生かそうとする態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数理的な事象に関心をもつとともに，活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き，日常の事象の考察に進んで生かそうとする。	算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，見通しをもち筋道を立てて考える。	数量や図形についての表現や処理にかかわる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち，それらの意味，性質などについて理解している。

3 内容のまとめりごとの評価規準の設定

算数科においては，学習指導要領の内容の「A 数と計算」「B 量と測定」「C 図形」「D 数量関係」の各領域を内容のまとめりとして，これらごとに評価規準を作成した。

第2 内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

第1学年

1 学年目標

- (1) 具体物を用いた活動などを通して，数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに，加法及び減法の意味について理解し，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して，量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね，量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して，図形についての理解の基礎となる経験を重ね，図形についての感覚を豊かにする。

2 第1学年の評価の観点の趣旨

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数量や図形に親しみをもち，それらについて様々な経験をもととする。	算数的活動を通して，数理的な処理に親しむ。	整数の計算が確実にでき，それを用いるとともに，ものの大きさを比較したり，身近な立体を観察したり構成したりする。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し，量や図形についての理解の基

			礎となる経験を重ねている。
--	--	--	---------------

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1)「A 数と計算」

【学習指導要領の内容】

- (1) ものの個数を数えることなどの活動を通して，数の意味について理解し，数を用いることができるようにする。
- ア 対応などの操作によって，ものの個数を比べること。
 - イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。
 - ウ 数の大小及び順序を考えることによって，数の系列を作ったり，数直線の上に表示したりすること。
 - エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど，ほかの数と関係付けてみること。
 - オ 100 までの数について，その表し方と意味を理解すること。
- (2) 加法及び減法の意味について理解し，それらを用いることができるようにする。
- ア 加法及び減法が用いられる場合について知り，それらを式で表したり，その式をよんだりすること。
 - イ 1 位数と 1 位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え，その計算が確実にできること。
- (3) 具体的な事物について，まとめて数えたり等分したりし，それを整理して表すことができるようにする。

【「A 数と計算」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数と計算について親しみをもち，それらについて様々な経験をもととする。	実際にものの大きさや順番を調べたり，大きさなどを図や式に表したりするなどの算数的活動を通して，数の表し方や計算の仕方を工夫したり考えたりする。	整数の加法及び減法についての簡単な計算が確実にでき，それらを用いることができる。	数についての感覚を豊かにするとともに，整数の意味と表し方や，整数の加法及び減法の計算の意味について理解している。

【「A 数と計算」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物などのものの個数を正しく数えたり表したりしようとする。 ・ 具体的な場で，個数や順番を数を用いて表すことよさに気付く。 ・ 数を用いると，数の大小や順序がよく分かるというよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数にかかわる作業的・体験的な活動を通して，数のよみ方，表し方，大小や順序について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100 までの数について，よんだり表したりすることができる。 ・ ものの個数や順番を正しく数えたり，表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数の大きさや数の構成についての豊かな感覚をもっている。 ・ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなどして，数の構成についての豊かな感覚をもっている。 ・ 100 までの数について，数の大小や順序，表し方を理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 加法及び減法の計算の仕方を自ら工夫しようとする。 ・ 加法及び減法を用いて身の回りの問題を解決 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算にかかわる作業的・体験的な活動を通して，計算の仕方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加法及び減法の場面を式で表したり，そうした式をよんだりすることができる。 ・ 1 位数と 1 位数の加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加法及び減法が用いられる場合を理解している。 ・ 1 位数と 1 位数の加法及びその逆の減法

<p>するなど、加法及び減法を進んで用いようとする。</p>		<p>法及びその逆の減法の計算が確実にできる。</p>	<p>について、計算の仕方を理解している。</p>
<p>・具体的な事物について、幾つかずつまとめて数えることよさに気付く。</p>	<p>・数にかかわる作業的・体験的な活動を通して、まとめて数えたり等分したりすることについて考える。</p>	<p>・具体的な事物について、まとめて数えたり等分したりすることができる。</p>	<p>・まとめて数えたり等分したりすることを通して、数についての豊かな感覚をもっている。</p>

(2)「B 量と測定」

【学習指導要領の内容】

(1) ものの長さを比較することなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

ア 長さを直接比べること。

イ 身近にあるものの長さを単位として、その幾つ分かで長さを比べること。

【「B 量と測定」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<p>ものの長さに親しみを持ち、量と測定について様々な経験をもとうとする。</p>	<p>ものの長さを調べたり比較したりする算数的活動を通して、数理的な処理に親しむ。</p>	<p>身近にあるものの長さを比較したり、ある長さの幾つ分かで表したりすることができる。</p>	<p>長さの大きさについての感覚を豊かにするとともに、長さとその測定についての理解の基礎となる経験を重ねている。</p>

【「B 量と測定」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<p>・身近にあるものの長さに関心を持ち、比較しようとする。</p> <p>・身近にあるものの長さについて、比較の方法をいろいろと工夫しようとする。</p> <p>・身近にあるものの長さについて、分かりやすい方法で表そうとする。</p> <p>・長さを数値で表すことの便利さなどのよさに気付く。</p>	<p>・身近にあるものの長さの比べ方について工夫したり考えたりする。</p> <p>・ものの長さの表し方について工夫したり考えたりする。</p>	<p>・直接比較や間接比較によって、身の回りの具体物の長さを比べることができる。</p> <p>・身近にあるものの長さを単位として、その幾つ分かで長さを比べることができる。</p>	<p>・身近にあるものの長さを基に大小の判断をするなどして、量の大きさについての豊かな感覚をもっている。</p> <p>・ものの長さの直接比較や間接比較の方法を理解している。</p> <p>・身近にあるものの長さを単位として、その幾つ分かで長さを表す方法を理解している。</p>

(3)「C 図形」

【学習指導要領の内容】

(1) 身近な立体についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

ア ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすること。

イ 前後、左右、上下などの方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すこと。

【「C 図形」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
身近な立体に親しみを持ち、図形について様々な経験をもととする。	身近な立体についての観察や構成などの算数的活動を通して、図形に親しむ。	ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすることができる。	ものの形についての感覚を豊かにするとともに、図形についての理解の基礎となる経験を重ねている。

【「C 図形」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある立体について、観察したり、触れたり、構成したりしようとする。 ・前後・左右・上下などの言葉を用いて、二つのものの位置関係を言い表そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるものの形の特徴をとらえ、箱の形、筒の形、ボールの形を見つける。 ・前後、左右、上下などの言葉を用いて、ものの位置の表し方を工夫したり考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある具体物を用いて、立体を構成することができる。 ・身の回りにおける立体を箱の形、筒の形、ボールの形などに分類したり、立体の面に着目して、まる、さんかく、しかくなどの形を認めたりすることができる。 ・前後、左右、上下などの言葉を用いて、ものの位置を正しく言い表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りで立体がどんなところに見られるか、どんな特徴があるかということに着目することを通して、図形についての豊かな感覚をもっている。 ・前後、左右、上下などの言葉の意味や、ものの位置の言い表し方を理解している。

第2学年

1 学年目標

- (1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに、加法及び減法についての理解を深め、用いることができるようにする。また、乗法の意味を理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して、長さの単位や測定について理解できるようにし、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を一層重ね、図形についての感覚を豊かにする。

2 第2学年の評価の観点の趣旨

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数量や図形に親しみを持ち、それらについて様々な経験をもととするとともに、知識や技能などを進んで用いようとする。	算数的活動を通して、数理的な処理に親しむ。	整数の計算が確実にでき、それを用いるとともに、ものの大きさを測定したり、ものの形を観察したり構成したりする。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方、整数の計算の意味及び量の単位と測定の意味を理解し、図形についての理解の基礎となる経験を重ねている。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1)「A 数と計算」

【学習指導要領の内容】

- (1) 数の意味や表し方について理解し，数を用いる能力を伸ばす。
- ア 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり，分類して数えたりすること。
 - イ 4位数までについて，十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。
 - ウ 数を十を単位としてみたり百を単位としてみたりするなど，数の相対的な大きさについて理解すること。
 - エ 一つの数をほかの数の積としてみるなど，ほかの数と関係付けてみること。
 - オ 簡単な事柄を分類整理し，それを数を用いて表したり，表やグラフの形に表したりすること。
- (2) 加法及び減法についての理解を深め，それらを用いる能力を伸ばす。
- ア 加法と減法の相互関係について理解すること。
 - イ 2位数までの加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え，それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し，それらの計算が確実にできること。また，それらの筆算の仕方について理解すること。
 - ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。
- (3) 乗法の意味について理解し，それらを用いることができるようにする。
- ア 乗法が用いられる場合について知り，それを式で表したり，その式をよんだりすること。
 - イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ，それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。
 - ウ 乗法九九について知り，1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

【「A 数と計算」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数と計算に親しみを持ち，それらについて様々な経験をもととするとともに，知識や技能などを進んで用いようとする。	実際にものの大きさや順番を調べたり，大きさなどを図や式に表したりするなどの算数的活動を通して，十進位取り記数法による数の表し方や計算の仕方を工夫したり考えたりする。	数を用いる能力を伸ばすとともに，整数の加法，減法，乗法の計算が確実にでき，それらを用いることができる。	数についての感覚を豊かにするとともに，整数の意味と表し方，整数の加法及び減法の計算の仕方，乗法の計算の意味について理解している。

【「A 数と計算」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものを10や100や1000のまとめりにして数えようとしたり，数えたものを数字を使って書いたりよんだりしようとする。 ・数を相対的な大きさからとらえようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なものの個数を実際に数える活動を通して，十進位取り記数法の仕組みを考える。 ・数を相対的な大きさからとらえることや一つの数をほかの数の積としてみる見方など，数を多様にとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4位数までの数について，数えたり書き表したりすることができる。 ・十，百，千を単位として数をとらえることができる。 ・一つの数をほかの数の積としてみることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4位数までの数のよみ方，表し方，大小，順序などについて理解している。 ・数を相対的な大きさからとらえること（例）8000を，1000が8個集まった数，100が80個集まった数などととらえるこ

<ul style="list-style-type: none"> ・分類整理して数える中で、表やグラフの形に表すことよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを分かりやすく表すために、その表し方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な事柄を分類整理し、それを数を用いて表したり、表やグラフの形に表したりすることができる。 	<p>と)や、一つの数をほかの数の積としてみる見方((例)12を2×6, 3×4, 4×3, 6×2などとみる見方)などを通して、数についての豊かな感覚をもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な事柄を分類整理して、表やグラフに表す方法を理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・十進位取り記数法の仕組みに着目したり、既習の計算を活用したりして、2位数までの加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えようとする。 ・加法及び減法の計算を日常生活などに生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十進位取り記数法や既習の計算を基にして、2位数までの加法及びその逆の減法の計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆算による2位数までの加法及びその逆の減法の計算が確実にでき、それを用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2位数までの加法及びその逆の減法の計算の仕方を理解している。 ・加法と減法は互いに逆の関係になっているといった加法と減法の相互の関係を理解している。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・同じ数を何回も数える加法(累加)の簡潔な表現として、乗法九九のよさに気づき、ものを数えるときに、進んで乗法を用いようとする。 ・累加や乗数と積の関係、あるいは交換法則など乗法について成り立つ性質を用いて、乗法九九を構成しようとする。 ・九九表を用いたり、乗法九九を見直したりして乗法について成り立つ性質や決まりを進んで見つけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ数を何回も数える活動を通して、より簡便な計算方法を工夫したり考えたりする。 ・同じ大きさの幾つ分という見方でとらえる。 ・累加や乗数と積の関係、あるいは交換法則など乗法について成り立つ性質を用いて乗法九九を構成する。 ・九九表を用いて、乗法についての性質を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法九九が用いられる場面を具体物で表したり、言葉や式で表したりすることができる。 ・乗法九九を確実に唱えることができ、それを用いることができる。 ・九九表を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法が用いられる実際の場面を通して、乗法は、一つ分の大きさが決まっているときに、その幾つ分に当たる大きさを求める場合に用いられることを理解している。 ・乗数が1増えれば積は被乗数分だけ増えるという性質や、乗法の交換法則について理解している。

(2)「B 量と測定」

【学習指導要領の内容】

(1) 長さについて理解し、簡単な場合について、長さの測定ができるようにする。

ア 長さについて単位と測定の意味を理解すること。

イ 長さの単位(ミリメートル(mm)、センチメートル(cm)及びメートル(m))について知ること。

(2) 日常生活の中で時刻をよむことができるようにする。

【「B 量と測定」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
--------------	---------	-----------------	-----------------

長さ、時刻に親しみをもち、量と測定について様々な経験をもとにするとともに、知識や技能などを進んで用いようとする。	長さを調べたり、時刻をよんだりする算数的活動を通して、数理的な処理に親しむ。	簡単な場合について長さを測定したり、日常生活の中で時刻をよんだりすることができる。	長さの大きさについての感覚を豊かにするとともに、長さの単位と測定の意味、時刻のよみ方を理解している。
--	--	---	--

【「B 量と測定」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 任意単位で長さを測定する活動を通して、長さをより便利に正確に表そうとし、普遍単位を用いることよさに気付く。 測定する対象の大きさや目的に応じて、適切な単位やものさしを選択しようとし、実際にものさしなどを用いて進んで長さを測定しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 普遍単位を用いて、長さの大きさの表方を考える。 必要に応じて、一つの単位から別の新しい単位を作ること考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 長さの単位(mm, cm, m)を単位とし、身の回りの具体物の長さを測定することができる。 測定するものに応じて、適切な単位を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長さについての単位と測定の意味を理解している。 長さの単位(mm, cm, m)を知っている。 長さの単位の間係を理解している。 ものさしの目盛りの仕組みを理解している。 1 mがどのくらいの長さであるか、身の回りにあるものの大きさを基にしてとらえるなど、長さの大きさについての豊かな感覚をもっている。
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での活動との関連で時刻に関心を持ち、進んで活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 時計の長針、短針の位置関係に着目して、時刻のよみ方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 長針、短針をもつ時計を見て、時刻をよむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時計の長針、短針の動きを理解し、時刻のよみ方を理解している。

(3)「C 図形」

【学習指導要領の内容】

(1) ものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を一層豊かにする。

ア いろいろな形を作ったり分解したりすること。

イ 三角形、四角形などについて知り、それらをかいたり作ったりすること。

【「C 図形」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
ものの形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもとにするとともに、知識や技能などを進んで用いようとする。	ものの形についての観察や構成などの算数的活動を通して、図形に親しむ。	三角形、四角形などをかいたり、作ったりすることができる。	三角形、四角形についての感覚を豊かにするとともに、図形についての理解の基礎となる経験を重ねている。

【「C 図形」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・	数学的な考え方	数量や図形についての	数量や図形についての
------------	---------	------------	------------

態度		表現・処理	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 色板や棒などを並べたり、点を線で結んだりするなどして、いろいろな形を作ろうとする。 ずらしたり、回したり、裏返したりするなどの移動の操作をする中で、形を構成したり分解したりしようとする。 身の回りのものの形の中から三角形、四角形を見つけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 色板や棒を並べたり、点を線で結んだりして形を作り、作った形に近い身近な具体物を見つける。 図形の位置や向き、大きさなどにとらわれず、囲んでいる直線の数に着目して、三角形や四角形を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 色板や棒を並べたり、点を線で結んだりするなどして、形を作ることができる。 形を観察して、「さんかく」、「しかく」などを認めることができる。 身の回りのものの中から、三角形や四角形をしたものを取り出したり、紙を折ったり切ったりしてこれらの図形を作ったり、直線を引いて作図したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形を構成したり観察したりする活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。 紙を折ったり切ったりして三角形、四角形を作ったり、直線を引いて作図したりすることなどを通して、図形についての豊かな感覚をもっている。 三角形、四角形の意味について理解している。

第3学年

1 学年目標

- (1) 加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに、乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、除法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) かさ、重さや時間などの単位や測定について理解できるようにする。
- (3) 図形を構成する要素に着目して、基本的な図形について理解できるようにする。
- (4) 資料を整理して表やグラフに表したり用いたりすることができるようにし、それらの有用さが分かるようにする。

2 第3学年の評価の観点の趣旨

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気付き、進んで生活に生かそうとする。	算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	整数の計算が確実にでき、それをを用いるとともに、ものの大きさを測定したり、図形を構成要素に着目して構成したり、資料を表やグラフに表したりする。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の計算の意味、量の単位と測定の意味、基本的な図形の意味及び資料の表し方を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1)「A 数と計算」

【学習指導要領の内容】

- (1) 数の表し方についての理解を深め、数を用いる能力を伸ばす。
 - ア 万の単位について知ること。
 - イ 10倍、100倍したり10で割ったりした大きさの数及びその表し方について知ること。
 - ウ 数の相対的な大きさについての理解を深めること。
- (2) 加法及び減法の計算が確実にできるようにし、それらを適切に用いる能力を伸ばす。
 - ア 3位数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算が2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。
 - イ 加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。

- ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。
- (3) 乗法についての理解を深め，その計算が確実にできるようにし，それを適切に用いる能力を伸ばす。
- ア 2位数や3位数に1位数をかけたり，2位数に2位数をかけたりする乗法の計算の仕方を考え，それらの計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また，その筆算の仕方について理解すること。
- イ 乗法の計算が確実にでき，それを適切に用いること。
- ウ 乗法に関して成り立つ性質を調べ，それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。
- (4) 除法の意味について理解し，それをを用いることができるようにする。
- ア 除法が用いられる場合について知り，それを式で表したり，その式をよんだりすること。また，余りの意味について理解すること。
- イ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。
- ウ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。
- (5) そろばんによる数の表し方について知り，そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにする。
- ア そろばんによる数の表し方について知ること。
- イ 加法及び減法の計算の仕方について知ること。

【「A 数と計算」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
整数の意味や表し方，整数の四則計算にかかわる知識や技能の有用さ，及びそれらの性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気づき，進んで生活に生かそうとする。	整数の意味，表し方や整数の四則計算にかかわる算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	十進位取り記数法により整数を表すことができるとともに，整数の四則計算が確実にでき，それらを適切に用いることができる。	整数の表し方についての理解を深め，整数についての感覚を豊かにするとともに，整数の四則計算の意味を理解している。

【「A 数と計算」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
・十進位取り記数法の有用さに気づき，より大きな数の表し方に生かそうとする。	<ul style="list-style-type: none"> 一つの数を10倍，100倍したり10で割ったりした大きさをつくと，その数字の並び方は変わらないことに着目できる。 数の相対的な大きさの活用により，計算の仕方を工夫することができる。(例) 100を単位にすると $500 + 700$ は $5 + 7$ とみられ，800×5 は 8×5 とみられる。) 	<ul style="list-style-type: none"> 万の単位までの数の大きさについて，よんだり表したりすることができる。 一つの数を10倍，100倍したり10で割ったりした大きさをつくることのできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 万の単位について知り，数の表し方である十進位取り記数法について理解している。 数の多面的な見方や相対的な大きさについての理解を深め，身近にあるものの数の大きさについて具体的にとらえるなど，数についての豊かな感覚をもっている。
・3位数の加法及び減法の計算の仕方を考えたり，計算を活用したり	・3位数の加法及び減法の計算の仕方を，2位数の場合の計算	・3位数の加法及び減法の計算が確実にでき，それらを用いる	・3位数の加法及び減法について，計算の仕方を理解してい

<p>することのよさに気付く、それらを進んで日常生活に生かそうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な計算（2位数と2位数との加法及びその逆の減法）を暗算で行おうとする。 	<p>の仕方や、整数の加法や減法に関して成り立つ性質を基にして考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 加法及び減法の筆算や見積りをする際に、暗算を生かすことを考える。 	<p>ことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な計算（2位数と2位数との加法及びその逆の減法）は暗算ででき、それを筆算や見積りに用いることができる。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 整数の加法及び減法に関して成り立つ性質について理解している。 簡単な計算（2位数と2位数との加法及びその逆の減法）の暗算の仕方について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする乗法の計算の仕方を考えたり、活用したりすることのよさに気付く、それらを進んで生かそうとする。 簡単な計算（2位数と1位数との乗法）は、暗算で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする乗法の計算の仕方、乗法九九などの基本的な計算を基にして考える。 乗法の筆算や見積りをする際に、暗算を生かすことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする計算が確実にでき、それらを用いることができる。 簡単な計算（2位数と1位数との乗法）は暗算ででき、それを筆算や見積りに生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする乗法の計算の仕方について理解している。 整数の乗法に関して成り立つ性質について理解している。 簡単な計算（2位数と1位数との乗法）の暗算の仕方について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 除法の意味や計算の仕方について、乗法との関連や具体物の操作などからとらえようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数の除法の計算の仕方について、整数の乗法の計算を基にして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 除法の場面を式で表したり、式をよんだりすることができる。 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にでき、それを用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数の除法の意味について理解している。 除数と商が共に1位数である除法の計算の仕方について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> そろばんは、数を表したり、計算したりするのに便利なものであることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> そろばんを用いて数を表すことにより、十進位取り記数法の仕組みを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> そろばんを用いて数を表したり、簡単な加法及び減法の計算をしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> そろばんを用いての数の表し方や、簡単な加法及び減法の計算の仕方について理解している。

(2)「B 量と測定」

【学習指導要領の内容】

- 長さ、かさ、重さについて理解し、簡単な場合について、それらの測定ができるようにする。
 - 長さの単位（キロメートル(km)）について知ること。
 - かさ、重さについて単位と測定の意味を理解すること。
 - かさの単位（リットル(l)）について知ること。
 - 重さの単位（グラム(g)）について知ること。
- 長さなどについて、およその見当をつけたり、目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできるようにする。
- 時間について理解できるようにする。
 - 日、時、分及び秒について知り、それらの関係を理解すること。
 - 簡単な場合について、必要な時刻や時間を求めること。

【「B 量と測定」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
--------------	---------	-----------------	-----------------

長さ、かさ、重さ、時間にかかわる知識や技能などの有用さ及びそれらの性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気付き、進んで生活に生かそうとする。	長さ、かさ、重さを調べたり表したりする算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	簡単な場合について、長さ、かさ、重さの測定をしたり、必要な時刻や時間を求めたりすることができる。	長さ、かさ、重さ、時間の大きさについての感覚を豊かにするとともに、長さ、かさ、重さの単位と測定の意味、時間の単位の関係、必要な時間や時刻の求め方を理解している。
---	---	--	--

【「B 量と測定」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 1 km, 1 kgの大きさを実際に調べようとする。 かさ、重さなどの量を数値化する必要性や、明瞭・的確に表すことのできるよさに気付く、身の回りのかさや重さを測定し、生活に生かそうとする。 身の回りの様々な場面において、どんな単位がどのように使われているかを調べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> かさ、重さの量の比較や測定の方法について、長さの場合の直接比較、間接比較、任意単位による測定、普遍単位による測定などを用いて考える。 必要に応じて新しい単位を作ること考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 長さの単位(km)、かさの単位(l)、重さの単位(g)を用いて、身の回りの具体物の大きさを表したり測定したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長さの単位(km)を知り、他の長さの単位との関係を理解している。 1 kmの大きさを調べるなどの活動を通して、長さの大きさについての豊かな感覚をもっている。 かさの単位(l)、重さの単位(g)とそれらの測定の意味を理解している。 身の回りの容器などを用いて測定するなどの活動を通して、かさの大きさについての豊かな感覚をもっている。 1 kgの大きさを調べるなどの活動を通して、重さの大きさについての豊かな感覚をもっている。 かさの単位(ml)(dl)、重さの単位(kg)の単位を知り、他の単位との関係について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定しようとする。 測定して得られた数値を、適切な単位を選択することにより、扱いやすい大きさにすることのよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて測定のための適切な単位を選んだり判断したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> およその大きさの見当をつけたり、目的に応じて単位や計器を適切に選んで、測定したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> およその大きさの見当をつけ、測定に用いる単位や計器を適切に選択することを通して、単位の大きさについての豊かな感覚をもっている。
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で必要な時刻や時間を求めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な時刻や時間の求め方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な時刻や時間を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活での活動を通して、時間の大きさについての豊かな感覚をもっている。

			<ul style="list-style-type: none"> ・時間の単位(日,時,分,秒)を知り,それらの関係を理解している。 ・必要な時刻や時間を求める方法を理解している。
--	--	--	--

(3)「C 図形」

【学習指導要領の内容】

(1) ものの形についての観察や構成などの活動を通して,基本的な図形について理解できるようにする。

ア 箱の形をしたものを観察したり作ったりすることを通して,図形を構成する要素について知ること。

イ 図形を構成する要素に着目して,正方形,長方形,直角三角形について知り,それらをかいたり,作ったり,平面上で敷き詰めたりすること。

【「C 図形」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
箱の形,正方形,長方形,直角三角形にかかわる知識や技能などの図形の有用さ,及びそれらの図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気づき,進んで生活に生かそうとする。	箱の形や正方形,長方形,直角三角形についての観察や構成などの算数的活動を通して,数学的な考え方の基礎を身に付け,事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	図形を構成する要素に着目して,箱の形や正方形,長方形,直角三角形をかいたり,作ったり,平面上で敷き詰めたりすることができる。	箱の形や正方形,長方形,直角三角形についての感覚を豊かにするとともに,それらの意味を理解している。

【「C 図形」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・箱の形をしたものを観察したり分解したり,長方形や正方形を貼り合わせたり,ひごなどを用いたりして箱の形を構成しようとする。 ・身の回りから,直角や正方形,長方形であるものを見いだそうとする。 ・正方形,長方形,直角三角形についての観察や構成などの活動を通して,それらの性質や関係を調べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頂点,辺,面という構成要素に着目し,その個数や形について調べる活動を通して,箱の形の特徴を見つける。 ・直角と辺の長さについて着目し,正方形,長方形の特徴を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箱の形をしたものを観察したり分解したり,正方形や長方形を貼り合わせたり,ひごなどを用いたりして,箱の形を構成することができる。 ・身の回りから,直角を見いだしたり,紙を折って直角を作ったりすることができる。 ・四角形を直角や辺の長さに着目して分類したり,方眼紙上に正方形や長方形を作図したり,紙を折って正方形,長方形を作ったりすることができる。 ・正方形,長方形や直 	<ul style="list-style-type: none"> ・箱の形をしたものの頂点,辺,面という構成要素やそれらの個数や形について理解している。 ・直角の意味を理解している。 ・正方形,長方形,直角三角形の意味を理解している。 ・正方形,長方形や直角三角形を一定の決まりに従って並べることによって美しい模様を作るなど,図形についての豊かな感覚をもっている。

		角三角形を平面上で敷き詰めることができる。	
--	--	-----------------------	--

(4)「D 数量関係」

【学習指導要領の内容】

(1) 資料を表やグラフで分かりやすく表したり，それらをよんだりすることができるようにする。

ア 日時，場所などの簡単な観点から分類したり，整理して表にまとめたりすること。

イ 棒グラフのよみ方及びかき方について知ること。

【「D 数量関係」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
資料の分類整理，表や棒グラフにかかわる知識や技能などの有用さ及びそれらの性質や関係を調べたり，筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気づき，進んで生活に生かそうとする。	資料を分類整理し，表や棒グラフに表したり，それらをよんだりすることにかかわる算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	資料を分類整理し，表や棒グラフに表すことができるとともに，表やグラフから事象の特徴などについてよむことができる。	資料の分類整理の方法，表や棒グラフの表し方，よみ方を理解している。

【「D 数量関係」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある事象について，目的に応じて観点を決め，資料を分類整理して，これを表やグラフに表したり，よんだりしようとする。 資料に落ちや重なりがないことや，集計に誤りがないことを確かめたり，誤りがおきにくいような方法を工夫したりしようとする。 表やグラフは，資料を整理し，自ら見いだしたことを他の人に伝える手段としての働きがあることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の分類整理にあたって，目的にあった分類の観点を選んだり，資料に落ちや重なりがないように項目を決めたりすることを考える。 資料に落ちや重なりがないことや集計に誤りがないことを確かめたり，誤りがおきにくいような方法を考えたりする。 棒グラフをかくにあたって，グラフ用紙などの大きさによる目盛りの取り方や目的に合った最小目盛りを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 日時，場所などの簡単な観点から分類の項目を選び，資料を目的にあった手際の良い方法で，分かりやすく整理して表にまとめることができる。 簡単な二次元の表について，二つの観点からみることができる。 棒グラフを見て，最大の値や最小の値をとらえたり，集団のもつ全体的な特徴をよみとったりすることができる。 棒グラフをかくとき，グラフ用紙などの大きさによって適切な目盛りを取ったり，目的にあった最小目盛りを用いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日時，場所などの簡単な観点から分類の項目を選び，資料を目的にあった手際の良い方法で，分かりやすく整理して表にまとめる方法を理解している。 簡単な二次元の表の見方を理解している。 棒グラフのよみ方，かき方を知っている。

第4学年

1 学年目標

- (1) 除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにする。
- (2) 面積の意味について理解し、簡単な平面図形の面積を求めることができるようにするとともに、角の大きさの意味について理解できるようにする。
- (3) 図形を構成する要素に着目して、基本的な図形についての理解を深めることができるようにする。
- (4) 数量やその関係を式やグラフを用いて表したり考察したりすることができるようにするとともに、目的に応じて依存関係を調べたり分類整理したりすることができるようにする。

2 第4学年の評価の観点の趣旨

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気付き、進んで生活に生かそうとする。	算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	整数や小数の計算が確実にでき、それらを用いるとともに、図形の面積を求めたり、図形を作図したり、数量の関係を表したり調べたりする。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、小数や分数の意味と表し方、面積の意味、基本的な図形の意味及び数量の関係の表し方や調べ方を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1)「A 数と計算」

【学習指導要領の内容】

- (1) 整数が十進位取り記数法によって表されていることについての理解を一層深める。
 - ア 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についてまとめること。
- (2) 概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。
 - ア 概数が用いられる場合について知ること。
 - イ 四捨五入について理解すること。
- (3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。
 - ア 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算の仕方を考え、それらの計算が基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。
 - イ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。
 - ウ 除法について、被除数、除数、商及び余りの間の関係を調べ、次の式にまとめること。
 $(被除数) = (除数) \times (商) + (余り)$
 - エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。
- (4) 小数の意味とその表し方について理解するとともに、小数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。
 - ア 端数部分の大きさを表すのに小数を用いること。また、小数の表し方及び1/10の位について知ること。
 - イ 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。
 - ウ 1/10の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。
- (5) 分数の意味とその表し方について理解できるようにする。
 - ア 端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すのに分数を用いること。また、分数の表し方について知ること。
 - イ 分数は、単位分数の幾つ分かで表せることを知ること。

【「A 数と計算」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
整数，小数や分数の意味と表し方，それらの計算にかかわる知識や技能の有用さ及びそれらの性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気付く，進んで生活に生かそうとする。	整数，小数や分数の意味や表し方，及びそれらの計算の意味や計算の仕方にかかわる算数の仕方にかかわる算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	目的に応じて概数を用いることができるとともに，整数の除法の計算が確実にできる。端数部分の大きさなどを，小数や分数で表すことや，小数の加法及び減法の計算をすることができ，それらを目的に応じて適切に用いることができる。	整数，小数や分数についての感覚を豊かにし，十進位取り記数法や整数の除法についての理解を深めるとともに，小数や分数の意味と表し方，小数の加法及び減法の計算の意味について理解している。

【「A 数と計算」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
・億や兆のような大きな数でも，十進位取り記数法によって簡単に表されるというよさに気付く。	・億や兆までの整数で，一つの数を10倍，100倍したり10で割ったりした数について考え，十進位取り記数法についてまとめて考える。	・億や兆のような大きな数を十進位取り記数法によって表すことができる。	・大きな数の構成についての豊かな感覚をもっている。 ・億や兆の単位について知り，整数が十進位取り記数法によって表されるという仕組みについて理解している。
・概数のよさに気付く，目的に応じて概数を用いようとする。	・数を概数（およその数）としてとらえる見方について考え，目的に応じてどの程度の概数にすればよいかを判断する。	・四捨五入を用いてある位までや上から何桁のような概数にすることができる。	・概数の意味や四捨五入の仕方について理解している。
・整数の除法についての計算が，これまでに学習した基本的な計算を基にしてできるというよさに気付く。	・整数の除法の計算で，除数が2位数の計算の仕方を，除数が1位数の計算を基にして考える。 ・除法に関して成り立つ性質を調べ，それを基にして計算の仕方を考える。	・2位数や3位数を1位数や2位数で割る計算が確実にでき，必要な場面で活用できる。 ・簡単な除法については，暗算で答えを求めることができる。	・整数の除法の計算について，それがどのような場面でどのように用いられるのかを理解している。 ・2位数や3位数を1位数や2位数で割る計算の筆算の仕方について理解している。 ・整数の除法において，被除数，除数，商及び余りの間の関係について理解している。
・小数を用いると整数で表せない端数部分の大きさを表すことができるなどのよさに気付く，進んで生活に生かそうとする。	・整数の十進位取り記数法の考えを，1より小さい数にまで拡張して考える。	・整数で表せない大きさを小数を用いて表すことができる。	・小数の意味と表し方について理解している。 ・相対的な大きさから小数をとらえる(例) 1.2は0.1が12個集

<ul style="list-style-type: none"> ・小数の加法及び減法の意味について計算の仕方を考えようとする活動の楽しさを知る。 ・整数や小数の計算が身の回りでどのように使われているかを見つけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1/10の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を、整数の計算を基にして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1/10の位までの小数の加法及び減法の計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まった数とみる)ことを通して、小数についての豊かな感覚をもっている。 ・小数の加法及び減法の計算について、それがどのような場面でどのように用いられるのかを理解している。 ・1/10の位までの小数の加法及び減法の計算について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・分数を用いると整数で表せない端数部分の大きさや等分してできる大きさなどを表すことができるなどのよさに気付き、進んで日常生活に生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数を端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさとして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1より小さい大きさや等分した大きさを分数を用いて表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数の構成や分数の大きさについての豊かな感覚をもっている。 ・分数は、単位分数の幾つ分かで表せることを理解している。 ・帯分数、仮分数、真分数の意味を理解している。

(2)「B 量と測定」

【学習指導要領の内容】

- (1) 面積の意味について理解し、簡単な場合について、面積を求めることができるようにする。
 - ア 面積について単位と測定の意味を理解すること。
 - イ 面積の単位(平方センチメートル(cm^2))について知ること。
 - ウ 正方形及び長方形の面積の求め方を考え、それらを用いること。
- (2) 角の大きさについて理解し、それを測定することができるようにする。
 - ア 角の大きさを回転の大きさとしてとらえ、その単位と測定の意味について理解すること。
 - イ 角の大きさの単位(度($^\circ$))について知ること。

【「B 量と測定」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
面積、角の大きさにかかわる知識や技能などの有用さ及びそれらの性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気付き、進んで生活に生かそうとする。	面積、角の大きさを調べたり表したりする算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	正方形や長方形の面積を求めたり、角の大きさを測定したりすることができる。	面積や角の大きさについての感覚を豊かにするとともに、面積の意味、面積の単位と測定、面積の求め方及び角の大きさの単位と測定の方法を理解している。

【「B 量と測定」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
・面積の大きさを数値化して表すことの便利さなどのよさに気付く。	・面積の大きさを表す方法を考える。 ・単位となる大きさを	・正方形、長方形の面積を公式を用いて求めることができる。	・面積について単位と測定の意味を理解している。

<ul style="list-style-type: none"> 正方形，長方形の面積の公式をつくり出そうとする。 面積の公式はいろいろな場面で使えるという公式の有用さに気付く。 	<p>基にして，正方形や長方形の面積の表し方を考えたり，公式をつくり出したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面積の単位 (cm^2，m^2，km^2) について知っている。 正方形及び長方形の面積の求め方を理解している。 身の回りにある具体物の面積の大小をとらえるなど，面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。 	
<ul style="list-style-type: none"> 角の大きさについて関心をもち，角の大きさに着目して，身近にある図形をとらえようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 普遍単位を用いて，角の大きさを表す方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 分度器を用いて角の大きさを測定したり，必要な角の大きさを作図したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 角の大きさの単位と測定の意味を理解している。 角の大きさの単位(度 ($^\circ$))を知っている。 角を見て，90° より大きい小さいかをとらえるなど，大きさについての豊かな感覚をもっている。

(3) 「C 図形」

【学習指導要領の内容】

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して，基本的な図形についての理解を深める。

ア 図形を構成する要素に着目して，二等辺三角形，正三角形について知り，それらをかいたり，作ったり，平面上で敷き詰めたりすること。

イ 基本的な図形と関連して角について知ること。

ウ 円について中心，直径及び半径を知り，円をかいたり作ったりすること。また，円に関連して球についても直径などを知ること。

【「C 図形」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
二等辺三角形，正三角形，円などにかかわる知識や技能の有用さ及びそれらの図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気付き，進んで生活に生かそうとする。	二等辺三角形，正三角形，円などの基本的な図形を観察したり構成したりするなどの算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	二等辺三角形，正三角形，円などの基本的な図形をかいたり，作ったりすることができる。	二等辺三角形，正三角形，円，球などの基本的な図形などについての感覚を豊かにするとともに，それらの図形の意味や性質について理解している。

【「C 図形」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形，正三角形の角の大きさを測定して，二等辺三角形の角の相等を調べたり，正三角形では一つの 	<ul style="list-style-type: none"> 辺の長さの相等関係に着目して，二等辺三角形，正三角形を見つける。 二等辺三角形，正三 	<ul style="list-style-type: none"> 辺の長さや角の大きさに着目して三角形を分類することができる。 コンパスや分度器を 	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形，正三角形の名称を知り，それらの意味を理解している。 二等辺三角形，正三

<p>角の大きさは 60° であることを確かめたりしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンパスなどを使って、二等辺三角形，正三角形の辺の長さが等しいことを確かめようとする。 半径や直径は，無数にあることに気付いたり，直径は円の中心を通る直線であることなどを確かめたりしようとする。 身の回りの図形で二等辺三角形，正三角形，円を見つけようとする。 	<p>角形の角について，三角形を折ると角がちょうど重なることから，大きさが等しいことを見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作図などを通して，円の性質に気付く。 	<p>使って，形も大きさも同じ二等辺三角形や正三角形を作図することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 形も大きさも等しい二等辺三角形，正三角形で平面を敷き詰めることができる。 コンパスを用いて円をかくことができる。 	<p>角形の性質として角の大きさが等しいことを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 形も大きさも等しい二等辺三角形，正三角形で平面を敷き詰めることができることを理解している。 敷き詰めた図形の中に四角形や三角形を認めたり，図形の美しさを感じたりするなど，図形についての豊かな感覚をもっている。 円について中心，直径，半径という用語を知り，円の意味を理解している。 円に関連して球についても，直径などを理解している。
--	---	--	---

(4) 「D 数量関係」

【学習指導要領の内容】

- 伴って変わる二つの数量について，それらの関係を表したり調べたりすることができるようにする。
 - 簡単な場合について，対応させる数量を考えたり，値の組を表などに表したりして関係を調べること。
 - 変化の様子を折れ線グラフに表したり，それから変化の特徴をよみとったりすること。
- 数量の関係を式で簡潔に表したり，それをよんだりすることができるようにする。
 - 四則の混合した式や()を用いた式について理解し，正しく計算すること。
 - 公式についての考え方を理解し，公式を用いること。
- 目的に応じて資料を集め，分類整理したり，特徴を調べたりすることができるようにする。
 - 二つの事柄に関して起こる場合について調べること。
 - 資料の落ちや重なりについて調べること。
 - 資料を折れ線グラフに表したり，グラフから特徴や傾向を調べたりすること。

【「D 数量関係」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数量の関係の表し方，資料の分類整理にかかわる知識や技能などの有用さ及びそれらの性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気づき，進んで生活に生かそうとする。	数量の関係をグラフや式に表したり，資料を分類整理したりすることにかかわる算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，事象について見通しをもち筋道を立てて考える。	数量やその関係を式や折れ線グラフを用いて表すことができるとともに，資料を分類整理して用いることができる。	数量の関係をグラフや式に表したり，よんだりする方法，目的に応じた資料の収集と分類整理の方法，特徴の調べ方を理解している。

【「D 数量関係」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解

<ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる二つの数量の関係について，対応する数量を考えたり，表などに整理したりして，決まりを見いだそうとする。 ・ 変化の様子を折れ線グラフに表したり，それから変化の特徴をよみとったりしようとする。 ・ 表やグラフを用いて変化と対応の決まりを調べ，身の回りの事象についての問題の解決に生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの数量の関係について，対応する数量があることに着目し，その対応の決まりを見いだし，それらの関係を考える。 ・ 折れ線グラフに表した二つの数量の変化の特徴を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量の関係について，表や折れ線グラフに表したり，それらから変化の特徴をよみとったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伴って変わる二つの数量の関係の調べ方について理解している。 ・ 変化の様子を折れ線グラフに表すこと，グラフから変化の様子をよみとることを理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 四則の混合した式や（ ）を用いた式のように気づき，式を適切に用いようとする。 ・ 公式を用いると，数量の関係を一般的にとらえることができるというよさに気づき，進んで用いようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四則の混合した式や（ ）を用いた式について，計算の順序を判断する。 ・ 公式を多面的にみることができる。 ・ 公式から，一方の数量が決まれば他方の数量も決まるという関係を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量の関係を式で簡潔に表したり，それをよんだりすることができる。 ・ 四則の混合した式や（ ）を用いた式について正しく計算することができる。 ・ 公式を用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量の関係を式で簡潔に表したり，それをよんだりする方法を理解している。 ・ 四則の混合した式や（ ）を用いた式について理解している。 ・ 公式についての考え方を理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を集め分類整理したり，特徴を調べたりするために，目的に応じた適切な方法を用いようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を二つの観点から分類整理して表やグラフに表すことを考える。 ・ 資料を折れ線グラフに表し，統計的な特徴や傾向を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの観点から，物を分類整理したり，論理的に起こり得る場合を調べたりすることができる。 ・ 落ちや重なりがないように資料を集め，分類整理して表に表すことができる。 ・ 資料を折れ線グラフに表したり，そのグラフから資料の統計的な特徴や傾向をよみとったり調べたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて資料を集め，二つの観点から分類整理する方法を理解している。 ・ 集めた資料を折れ線グラフに表したり，折れ線グラフから資料の統計的な特徴や傾向をよんだりする方法を理解している。

第5学年

1 学年目標

- (1) 小数及び分数の意味や表し方についての理解を深める。また，小数の乗法及び除法の意味について理解し，それらの計算の仕方を考え，適切に用いることができるようにするとともに，分数の加法及び減法の意味について理解し，それらの計算の仕方を考え，用いることができるようにする。
- (2) 面積の求め方についての理解を深めるとともに，基本的な平面図形の面積を求めることができるようにする。
- (3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し，基本的な平面図形についての理解を一層深めることができるようにする。
- (4) 百分率や円グラフを用いるなど，統計的に考察することができるようにするとともに，数量の関係を式で表したり，式をよんだり，その関係を調べたりすることができるようにする。

2 第5学年の評価の観点の趣旨

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり，論理的に考えたりすることのよさに気付く，進んで活用しようとする。	算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，論理的に考えたり，発展的，統合的に考えたりする。	小数や分数の計算が確実にでき，それらを用いるとともに，図形の面積を求めたり，図形の性質を調べたり，数量の関係などを表したり調べたりする。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに，小数や分数の計算の意味，面積の求め方，基本的な図形の意味や性質及び数量の関係の表し方や調べ方を理解している。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1)「A 数と計算」

【学習指導要領の内容】

(1) 整数の性質についての理解を深める。

ア 整数は，観点を決めると偶数，奇数に類別されることを知ること。

(2) 記数法の考えを通して整数及び小数についての理解を深め，それを計算などに有効に用いることができるようにする。

ア 10倍，100倍， $1/10$ ， $1/100$ などの大きさの数をつくり，それらの関係を調べること。

(3) 小数の乗法及び除法の意味について理解し，それらを適切に用いることができるようにする。

ア 乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

イ 乗数や除数が整数の場合の計算の考え方を基にして，乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

ウ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。また，余りの大きさについて理解すること。

(4) 分数についての理解を深めるとともに，同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し，それらを適切に用いることができるようにする。

ア 簡単な場合について，大きさの等しい分数があることに着目すること。

イ 整数及び小数を分数の形に直したり，分数を小数で表したりすること。

ウ 整数の除法の結果は，分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。

エ 同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え，それらの計算ができること。

(5) 概数についての理解を深める。

ア 目的に応じて，和，差を概数で見積もることができること。

【「A 数と計算」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
整数，小数，分数の性質や関係などに着目して考察処理したり，論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気付く，進んで活用しようとする。	整数の性質，記数法，小数の乗法及び除法，同分母の分数の加法及び減法，概数にかかわる算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，論理的に考えたり，発展的に考えたりする。	整数を偶数，奇数に分けること，整数や小数の10倍，100倍， $1/10$ ， $1/100$ などの大きさをつくることができ，小数の乗法及び除法，同分母の分数の加法及び減法の計算ができるとともに，目的に応じて和，差を概数で見積もることができる。	整数，小数や分数についての感覚を豊かにするとともに，整数の性質と記数法，小数及び分数の計算の意味，和や差の概数での見積りについて理解している。

【「A 数と計算」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 整数をある観点で分けると類別できるよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数を2で割ったときの余りに着目して、整数の集まりを二つに類別すること考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ある整数を偶数か、奇数かに分けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数は、偶数、奇数に類別できることを理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 整数と小数が同じ十進位取り記数法の仕組みをもっていることよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数や小数の10倍、100倍、$1/10$、$1/100$などの大きさを考える活動を通して、整数や小数の表し方を十進位取り記数法としてまとめて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数や小数の10倍、100倍、$1/10$、$1/100$などの大きさの数をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数や小数の10倍、100倍、$1/10$、$1/100$などの大きさをつくったり、数直線の上での位置を表したりするなど、整数や小数の大きさや構成についての豊かな感覚をもっている。 整数や小数の10倍、100倍、$1/10$、$1/100$などの大きさの数をつくる方法について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> (小数×整数)や(小数÷整数)の計算の意味や計算の仕方を(整数×整数),(整数÷整数)に関連付けて考えようとする。 小数の乗法及び除法の計算の意味について、数直線や図などを用いて、整数の計算の意味と関連付けて考えようとする。 小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されているため、小数の計算も整数の計算と同じように考えることができるよさに気付く。 小数の乗法及び除法の計算の仕方について、数の相対的な大きさの見方や計算の性質を生かして、整数の計算などと関連付けて考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> (小数×整数)や(小数÷整数)の計算の意味や計算の仕方を、(整数×整数),(整数÷整数)を基にして考える。 小数の乗法の意味を、整数の範囲から小数の範囲へと発展させて考える。 整数の場合に成り立つ式の形は、小数の場合も同じように成り立つととらえ、整数や小数の乗法の意味を、(基準にする大きさ)×(割合)=(割合に当たる大きさ)とまとめて考える。 小数の乗法及び除法の計算の仕方について、小数の意味と表し方、数の相対的な大きさの見方や計算の性質などを生かして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> (小数×整数)や(小数÷整数)の計算ができる。 小数の乗法及び除法が用いられる場面において、計算の意味などを数直線や図に表したり、式に表したりすることができる。 $1/10$の位までの小数どうしの乗法及び除法の計算ができる。また、余りを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> (小数×整数)や(小数÷整数)の計算の意味や計算の仕方を理解している。 小数の乗法や除法がどのような場面でのように用いられるのかを理解している。 $1/10$の位までの小数どうしの乗法及び除法の計算の仕方について理解している。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 表し方は異なっても大きさの等しい分数があることにもしろさを感じたり，関心をもったりする。 ・ 分数を整数や小数に直すことによって，大きさが比較しやすくなるというよさに気付く。 ・ 整数の除法の結果を分数で表すことによって計算の結果をいつでも簡単に表すことができるよさに気付く。 ・ 単位分数の幾つ分とみると，同分母の分数の加法及び減法は整数の計算と同じようにできるという考え方のよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分数の大きさについて，数直線や線分図に表すなどして考える。 ・ 整数や小数を分数で表したり，分数を整数や小数で表したりすることを通して，数の表し方を工夫したり考えたりする。 ・ 整数の除法の結果を一つの数で表すことを考える。 ・ 同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を単位分数の個数という見方から考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数直線や線分図を用いて，分数の大きさを表すことができる。 ・ 整数や小数を分数で表したり，分数を整数や小数で表したりすることができる。 ・ $a \div b$ を a/b とみたり，a/b を $a \div b$ とみたりすることができる。 ・ 同分母の真分数と真分数との加法及びその逆の減法の計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分数の大きさを数直線や線分図に表すなど，分数の大きさや構成についての豊かな感覚をもっている。 ・ 表し方が違ってても大きさの等しい分数があることを理解している。 ・ 整数や小数を分数で表したり，分数を整数や小数で表したりする方法について理解している。 ・ 整数の除法の結果を分数を用いて一つの数として表すことについて理解している。 ・ 同分母の分数の加法及び減法の計算がどのような場面でもどのように用いられるのかを理解している。 ・ 同分母の真分数と真分数との加法及び減法の計算の仕方を理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 和や差を概数で見積もることのよさに気付く，様々な場面で，目的に応じて用いようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて，正確な計算が必要なのか，およその計算でよいのかを判断することができる。 ・ 和や差を概数で見積もるとき，目的に応じて，どれくらいの概数にすればよいかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて，和や差を概数で見積もることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加法及び減法の計算のおよその結果をとらえるなど，数についての豊かな感覚をもっている。 ・ 和や差を概数で見積もる方法について理解している。

(2) 「B 量と測定」

【学習指導要領の内容】

(1) 基本的な平面図形の面積が計算で求められることへの理解を深め，面積を求めることができるようにする。

ア 三角形及び平行四辺形の面積の求め方を考え，それらを用いること。

イ 円の面積の求め方を考え，それらを用いること。

【「B 量と測定」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
三角形，平行四辺形，円の面積にかかわる性質や関係などに着目して考察処理したり，論理的に考えたりする楽しさやよさ	三角形，平行四辺形，円の面積の求め方を考える算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，論理	三角形，平行四辺形，円の面積を求めたり，それらを用いたりすることができる。	面積の大きさについての感覚を豊かにするとともに，三角形，平行四辺形，円の面積の求め方を理解している。

に気付き、進んで活用しようとする。	的に考えたり、発展的、統合的に考えたりする。	
-------------------	------------------------	--

【「B 量と測定」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 面積の求め方やその考え方を、様々な場面で進んで活用しようとする。 既習の正方形、長方形の面積の求め方に帰着させて考えることで、三角形、平行四辺形の面積を求めることができるよさに気付く。 三角形、平行四辺形の面積の公式をつくり出そうとする。 円の中に 1 cm^2 の正方形が幾つあるか数えたり、円を分割して平行四辺形に変形したりする活動を通して、円の面積を求めることができるよさに気付く。 円の面積の公式をつくり出そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の求積可能な図形の面積の求め方を基にして、三角形、平行四辺形の面積の求め方や公式を考える。 円の中に 1 cm^2 の正方形が幾つあるか数えたり、円を分割して平行四辺形に変形したりするなどの活動を通して、円の面積の求め方や公式を考える。 円に近い形の面積を見積もるときなど、目的に応じて円周率として3を用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形、平行四辺形の面積を公式を用いて求めることができる。 円の面積を公式を用いて求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 面積の大きさを比較するなど、面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。 必要な部分の長さを測ることによって、三角形、平行四辺形の面積が計算で求められることを理解している。 必要な部分の長さを測ることによって、円の面積が計算で求められることを理解している。

(3) 「C 図形」

【学習指導要領の内容】

- (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な平面図形についての理解を一層深めるとともに、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察できるようにする。
- ア 直線の平行や垂直の関係について理解すること。
 - イ 平行四辺形、台形、ひし形について知り、それらをかいたり、作ったり、平面上で敷き詰めたりすること。
 - ウ 基本的な図形の簡単な性質を見だし、それを用いて図形を調べたり構成したりすること。
 - エ 円周率の意味について理解すること。

【「C 図形」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<p>平行四辺形、台形、ひし形、円の構成要素及びそれらの位置関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気付く、進んで活用しようとする。</p>	<p>平行四辺形、台形、ひし形、円についての観察や構成などの算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、論理的に考えたり、発展的、統合的に考えたりする。</p>	<p>図形を構成する要素や位置関係に着目して、平行四辺形、台形、ひし形をかいたり、作ったり、平面上で敷き詰めたり、基本的な図形の性質を用いて、図形を調べたり構成したりすることができる。</p>	<p>平行四辺形、台形、ひし形、円についての感覚を豊かにするとともに、直線の平行や垂直の関係、それらの図形の意味や性質、円周率の意味を理解している。</p>

【「C 図形」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りから、平行や垂直になっているものを見いだそうとする。 垂直、平行や図形の性質を基にして、平行四辺形、台形、ひし形を弁別したり、作図したりしようとする。 身の回りから、平行四辺形、台形、ひし形をしたものを見いだそうとする。 平行四辺形、台形、ひし形を頂点や辺の個数、辺や角の相等関係、直線の平行、垂直の関係の観点からとらえようとする。 円周率を用いて、円の直径から円周を求めたり、円周から直径を求めたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの直線の位置関係について考える。 いろいろな四角形の観察や構成を通して、共通の性質をもつ図形に分類したり、それぞれの図形の性質について調べたり、作図したり、弁別したりする活動を通して、平行四辺形、台形、ひし形の特徴を見いだす。 いろいろな四角形の辺や角の相等関係、直線の平行、垂直などの位置関係に着目して、平行四辺形、台形、ひし形の性質を考える。 三角形など多角形の角の大きさの和について調べたり、考えたりする。 円に近い形の周の長さを見積もるときなど、目的に応じて円周率として3を用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行な二直線、垂直な二直線をかくことができる。 平行四辺形、台形、ひし形で平面を敷き詰めることができる。 平行四辺形、台形、ひし形の性質を基にして、作図をすることができる。 円周率を用いて、円の直径から円周を求めたり、円周から直径を求めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行や垂直の関係について理解している。 平行四辺形、台形、ひし形の意味について理解している。 平行四辺形、台形、ひし形で平面を敷き詰めたり、敷き詰められた図形の中に他の図形を認めたりするなど、図形についての豊かな感覚をもっている。 平行四辺形、台形、ひし形のかき方について理解している。 円周率の意味について理解している。 円周率が3.14であることを知っている。

(4)「D 数量関係」

【学習指導要領の内容】

- 四則に関して成り立つ性質についてまとめる。
 - ア 交換法則、結合法則や分配法則についての理解を深めること。
- 百分率の意味について理解し、それを用いることができるようにする。
- 目的に応じて資料を分類整理し、それを円グラフ、帯グラフを用いて表すことができるようにする。
- 簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目するなど、数量の関係の見方や調べ方についての理解を深める。

【「D 数量関係」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<p>四則に関して成り立つ性質、全体と部分の関係、式で表される関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気づき、進んで活用しようとする。</p>	<p>百分率や円グラフ、帯グラフを用いるなど、統計的に考察したり、式で表される関係を調べたりする算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、論理的に考えたり、発展的、統合的に考えた</p>	<p>百分率を用いたり、目的に応じて資料を分類整理し、円グラフ、帯グラフを用いて表したりすることができる。とともに、簡単な式で表されている関係について、数量の関係を調べることができる。</p>	<p>四則に関して成り立つ性質、百分率の意味、円グラフ、帯グラフ、数量の関係の見方や調べ方を理解している。</p>

	りする。		
--	------	--	--

【「D 数量関係」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 、などの記号を用いると、交換法則、結合法則、分配法則を簡潔、明瞭に、また一般的に表すことができるよさに気づき、計算方法を考えるときに、これらの計算法則を進んで活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算法則を、交換法則、結合法則、分配法則を基にしながら考えたり、、などの記号を用いて、これらの計算法則を一般的に考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 、などの記号を用いて、交換法則、結合法則、分配法則を表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の範囲を小数に広げて、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 百分率を用いることによって、割合を整数で表すことができ、分かりやすいといったよさに気付く。 日常の生活から百分率が用いられる事象を探すなどの活動を通して、生活の様々な場面で用いられていることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 百分率に関する基本的な計算について、小数の乗法及び除法の計算を用いて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体と部分、部分と部分の関係を割合を用いて表すことができる。 百分率に関する基本的な計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体と部分、部分と部分の関係を割合を用いて表すことを理解している。 百分率の意味について理解している。 歩合の意味を知っている。
<ul style="list-style-type: none"> 日常の事象を割合を用いて考えたり、百分率や円グラフ、帯グラフを活用して表したりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料について、全体と部分、部分と部分の間の関係を調べ特徴をとらえることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 円グラフや帯グラフをよんだり、かいたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 割合を表すグラフとして円グラフや帯グラフがあり、そのよみ方やかき方を理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 様々な問題解決の場面で、表やグラフをかいて二つの数量の対応や変化の様子にどんな特徴が見られるかを調べたり、二つの数量の関係を言葉の式や、などを用いた式などで表したりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフをかいて二つの数量の対応や変化の様子にどんな特徴が見られるかを調べたり、二つの数量の関係を言葉の式や、などを用いた式などで表したりして、数量の関係を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を表やグラフに表してその特徴を調べたり、言葉の式（(例)(長方形の面積) = (縦の長さ) × (横の長さ)）や、などを用いた式で表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表やグラフをかいて二つの数量の対応や変化の特徴の調べ方を理解している。 二つの数量の関係を言葉の式や、などを用いた式に表す方法を理解している。

第6学年

1 学年目標

- (1) 分数の加法及び減法についての理解を深め、適切に用いることができるようにするとともに、分数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにする。
- (2) 体積の意味について理解し、簡単な立体図形の体積を求めることができるようにするとともに、速さの意味などについて理解し、それらを求めることができるようにする。
- (3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、基本的な立体図形についての理解を深めることができるようにする。

(4) 比や比例の意味について理解し、数量の関係の考察に関数の考えを用いることができるようにする。

2 第6学年の評価の観点の趣旨

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気付く、進んで活用しようとする。	算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、論理的に考えたり、発展的、統合的に考えたりする。	分数の計算が確実にでき、それを用いるとともに、立体図形の体積を求めたり、立体図形を構成したり、数量の関係などを表したり調べたりする。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、分数の計算の意味、体積の求め方、基本的な立体図形の意味及び数量の関係の表し方や調べ方を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「A 数と計算」

【学習指導要領の内容】

- (1) 整数の性質についての理解を一層深める。
 - ア 約数、倍数について知ること。
- (2) 分数についての理解を一層深めるとともに、異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。
 - ア 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。
 - イ 分数の相等及び大小について考え、大小の比べ方をまとめること。
 - ウ 異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。
- (3) 分数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。
 - ア 乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。
 - イ 乗数や除数が整数や小数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が分数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。
 - ウ 分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。
- (4) 概数についての理解を一層深める。
 - ア 目的に応じて、積、商を概数で見積もることができること。

【「A 数と計算」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
整数の性質、分数の計算の意味、概数などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気付く、進んで活用しようとする。	整数の性質、分数の計算の意味や性質、概数にかかわる算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、論理的に考えたり、発展的、統合的に考えたりする。	約数や倍数を求めると、異分母の分数の加法及び減法の計算、分数の乗法及び除法の計算、目的に応じて積や商を概数で見積もることができる。	整数や分数についての感覚を豊かにするとともに、整数の性質、異分母の分数の加法及び減法の意味、分数の乗法及び除法の意味、概数による積、商の見積りについて理解している。

【「A 数と計算」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
・約数、倍数の考えが日常生活の場面で適用で	・整数を約数、倍数の観点から分類して考	・具体的な場面に即して、約数、倍数、公	・約数、倍数という観点から、整数の構成

<p>きるよさに気付き、それらを進んで問題解決に役立てようとする。</p>	<p>える。</p>	<p>約数、公倍数を求めることができる。</p>	<p>についての豊かな感覚をもっている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 分数の相等及び大小についての考えを生かして、異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数の相等及び大小について調べたり考えたりする。 異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数の相等及び大小を比べることができる。 異分母の分数の加法及び減法（真分数と真分数との加法及びその逆の減法）の計算ができ、それを用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの分数の分子、分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさであることを理解している。 通分や約分という観点から、分数の大きさについての豊かな感覚をもっている。 分数の相等及び大小の比べ方を理解している。 異分母の分数の加法及び減法の意味や計算の仕方について理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 分数の計算の仕方を、これまでに学習した整数や小数の計算に関連付けて考えようとする。 分数の乗法及び除法の計算を、整数や小数の計算を基にして考えたり工夫したりするよさに気付くとともに、そこに計算の意味や性質が有効に働いていることに気付き、それらを進んで活用して筋道立てて考えたり説明したりしていこうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数の乗法及び除法の計算では、計算の意味を整数や小数の範囲から発展させて考えたり、その計算の仕方を整数や小数の計算を基にして筋道立てて考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 帯分数を含まない分数の乗法及び除法の計算ができ、それを用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数の乗法及び除法の計算が、どのような場面でのようによく用いられるのかを理解している。 分数の乗法及び除法の計算の仕方を理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 積や商を概数で見積もることのよさに気付き、様々な場面で、目的に応じて用いようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、正確な計算が必要なのか、およその計算でよいのかを判断することができる。 積や商を概数で見積もるとき、目的に応じて、どれくらいの概数にすればよいかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、積や商を概数で見積もることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗法及び除法の計算のおよその結果をとらえるなど、数についての豊かな感覚をもっている。 積や商を概数で見積もる方法について理解している。

(2)「B 量と測定」

【学習指導要領の内容】

- 身近にある図形について、その概形をとらえ、およその面積などを求めることができるようにする。
- 体積の意味について理解し、簡単な場合について、体積を求めることができるようにする。
 - 体積について単位と測定の意味を理解すること。
 - 体積の単位（立方センチメートル(cm^3 ））について知ること。
 - 立方体及び直方体の体積の求め方を考え、それらを用いること。
- 異種の二つの量の割合としてとらえられる数量について、その比べ方や表し方を理解し、それを

用いることができるようにする。

ア 単位量当たりの考えなどを用いること。

イ 速さの意味及び表し方について理解するとともに，速さの求め方を考え，それを求めること。

【「B 量と測定」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
およその面積，立体図形の体積，異種の二つの量の割合にかかわる性質や関係などに着目して考察処理したり，論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気づき，進んで活用しようとする。	およその面積，立体図形の体積，異種の二つの量の割合を調べる算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，論理的に考えたり，発展的，統合的に考えたりする。	およその面積を求めたり，立体図形の体積を求めたり，異種の二つの量の割合を求めたりすることができる。	およその面積，立体図形の体積，異種の二つの量の割合についての感覚を豊かにするとともに，およその面積の求め方，体積の意味と求め方，異種の二つの量の割合としてとらえられる数量の比べ方や表し方を理解している。

【「B 量と測定」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身近にある図形について，その概形をとらえたり，およその面積を求めたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある様々な図形の面積などを求めるために，その概形をとらえて，測定しやすい図形とみたり，測定しやすい図形に分けたりする工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある図形の概形をとらえて，およその面積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物を実測するなどして，面積や体積の大きさについての豊かな感覚をもっている。 身近にある図形について，その概形をとらえておよその面積を求める方法を理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 立体図形の体積についても，単位の大きさを決めると，その幾つ分として数値化できるよさに気付く。 身の回りにあるものの体積を調べたり，それを活用したりしようとする。 立方体，直方体の体積の公式をつくり出そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位となる大きさを基にして，立方体，直方体の体積の求め方や公式を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 立方体，直方体の体積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体積の単位と測定の意味を理解している。 体積の単位 (cm^3) を知っている。 必要な辺の長さを測定することで，立方体や直方体の体積が計算によって求められることを理解している。
<ul style="list-style-type: none"> 異種の二つの量の割合でとらえられる速さや人口密度などを，単位量当たりの考えなどを用いて数値化したり，それらを進んで問題解決に生かしたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 異種の二つの量の割合でとらえられる速さや人口密度などを表し方を，単位量当たりの考えなどを用いて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 異種の二つの量の割合でとらえられる速さや人口密度などを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異種の二つの量の割合でとらえられる速さや人口密度などの量の大きさについての豊かな感覚をもっている。 速さや人口密度などの比べ方や表し方について理解している。

(3)「C 図形」

【学習指導要領の内容】

- (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な立体図形についての理解を深めるとともに、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察ができるようにする。
- ア 立方体及び直方体について理解すること。
- イ 直方体に関連して、直線や平面の平行及び垂直の関係について理解すること。
- ウ 三角柱、四角柱などの角柱及び円柱について知ること。

【「C 図形」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
立方体、直方体、三角柱、四角柱、円柱の構成要素及び位置関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気付く、進んで活用しようとする。	立方体、直方体、三角柱、四角柱、円柱についての観察や構成などの算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、論理的に考えたり、発展的、統合的に考えたりする。	立方体、直方体を調べたり、構成したりすることができる。	立方体、直方体についての感覚を豊かにするとともに、それらの図形の意味を理解し、三角柱、四角柱などの角柱及び円柱について理解している。

【「C 図形」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 立体図形を観察したり、構成したり、分解したりすることを通して、図形についての見方を豊かにしていくよさに気付く、その特徴をとらえようとする。 立方体や直方体を、構成要素の個数や面の形、辺や面の平行、垂直などの観点からとらえようとする。 角柱や円柱を観察したり、分類したりするなどの活動を通して、その特徴をとらえようとする。 身の回りから立方体、直方体、三角柱、四角柱、円柱であるものを見いだそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 構成要素の個数、面の形、辺や面の平行及び垂直の関係などに着目し、立方体や直方体の特徴を考える。 立体図形を観察するなどの活動を通して、角柱や円柱の特徴を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 立方体、直方体を見取図や展開図で表すことができる。 立体図形を観察したり、分類したりするなどの活動を通して、角柱や円柱の特徴を調べることができる。 角柱や円柱の特徴をとらえたり、角柱や円柱の面の形をとらえたり、辺と辺、辺と面、面と面の平行、垂直の関係をとりえたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある立体の中から、角柱や円柱を取り出すなど、図形についての豊かな感覚をもっている。 立方体、直方体も角柱の仲間であることを理解している。 構成要素の個数や面の形、辺や面の平行、垂直の関係も含めて、立方体や直方体について理解している。 三角柱、四角柱や円柱などの名称を知り、柱体の性質を理解している。

(4)「D 数量関係」

【学習指導要領の内容】

- (1) 簡単な場合について、比の意味を理解できるようにする。
- (2) 伴って変わる二つの数量について、それらの関係を考察する能力を伸ばす。
- ア 比例の意味について理解すること。また、簡単な場合について、表やグラフを用いてその特徴を調べること。
- (3) 平均の意味について理解し、それを用いることができるようにする。

【「D 数量関係」の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
比，比例，平均の性質や関係などに着目して考察処理したり，論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気付き，進んで活用しようとする。	比，比例，平均にかかわる算数的活動を通して，数学的な考え方の基礎を身に付け，論理的に考えたり，発展的，統合的に考えたりする。	比，比例，平均を活用することができるとともに，それらを数量の関係の考察に用いることができる。	比，比例，平均についての意味や調べ方を理解している。

【「D 数量関係」の評価規準の具体例】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・二つの数量を共通の基準を用いて比較する比のよさに気付き，日常生活の中から比が用いられる事象を探したり，進んで活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比を割合と関連付けてとらえるなど，ものの見方や考え方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの数量の関係を比で表したり，調べたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合について，二つの数量の関係を表す比の意味や表し方を理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・比例関係に着目するよさに気付き，日常生活の中の伴って変わる二つの数量の中から比例関係にあるものを見いだしたり，問題の解決に進んで活用したりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる二つの数量の関係について考える。 ・比例関係という観点から，円周率（円の直径と円周との関係）や図形の求積公式などをとらえ直してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比例関係にある二つの数量の関係を，表やグラフに表すことができる。 ・比例関係の表やグラフをよむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比例の意味や性質，関係を表す表やグラフについて理解している。
<ul style="list-style-type: none"> ・集団の特徴を表す値として平均を用いるよさに気付き，身の回りにある事柄について統計的な考察をしたり，表現をしたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある事柄について，平均の考えを用いて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の特徴を表す値として平均を用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均の意味について理解している。

第3 単元の評価に関する事例

ここでは、第5学年の「量と測定」領域での単元の指導事例を取り上げて紹介する。本単元では、第4学年で学習した面積の意味、正方形や長方形の面積の求め方などを基にして、三角形、平行四辺形の面積の求め方を考え、面積の公式を活用できるようにする。評価の方法としては、児童の話し合いや発表の様子の観察、面積の求め方を工夫する学習活動の様子の観察、ノートへの記述の観察、ペーパーテストなどを用いている。

第5学年 11月

単元名 「平行四辺形と三角形の面積」(10時間)

1 単元の目標

平行四辺形、三角形の面積の求め方を理解し、それらの面積を求めることができる。また、それ以外の図形の面積についても、既習の図形の面積の求め方を基に考え、求めることができる。

2 単元の評価規準

【B「量と測定」】

	ア 算数への関心・意欲・態度	イ 数学的な考え方	ウ 数量や図形についての表現・処理	エ 数量や図形についての知識・理解
ご内と容のの評ま価と規ま準り	三角形、平行四辺形、円の面積にかかわる性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりする楽しさやよさに気づき、進んで活用しようとする。	三角形、平行四辺形、円の面積の求め方を考える算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、論理的に考えたり、発展的、統合的に考えたりする。	三角形、平行四辺形、円の面積を求めたり、それらを用いたりすることができる。	面積の大きさについての感覚を豊かにするとともに、三角形、平行四辺形、円の面積の求め方を理解している。
単元の評価規準	面積の求め方やその考え方を、いろいろな場面で進んで活用しようとする。既習の求積可能な図形の面積の求め方に帰着させて考えることで、三角形、平行四辺形の面積を求めることができることよさに気付く。	三角形、平行四辺形の面積の求め方を、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、公式をつくり出したりする。三角形、平行四辺形以外のいろいろな図形についても、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基にして考える。	三角形、平行四辺形の面積を公式を用いて求めることができる。三角形、平行四辺形の面積公式を、必要に応じて用いることができる。	必要な部分の長さを測ることによって、三角形、平行四辺形の面積が計算で求められることを理解している。三角形、平行四辺形について、底辺をどこにとるかで高さが決まることを理解している。
学習活動における具体の評価規準	平行四辺形の面積を既習の図形の面積と関連付けて求めようとする。三角形の面積を既習の図形の面積と関連付けて求めようとする。三角形、平行四辺形の求積方法を活用して問題を解決しようとする。	平行四辺形の面積の求め方を既習の長方形の面積に帰着させて考える。等積変形した長方形の縦と横の長さに着目して、平行四辺形の面積公式を考える。高さが一定の平行四辺形において、底辺の長ささと面積とがどのような関係にあるかを調べたり考えたりする。三角形の面積の求め方を既習の図形の面	高さが平行四辺形の外にあっても、面積公式を用いて面積を求めることができる。高さが三角形の外にあっても、面積公式を用いて面積を求めることができる。いろいろな図形の面積を求めるときに、三角形、平行四辺形の面積公式を活用することができる。	平行四辺形の面積公式を理解している。高さが平行四辺形の外にあっても、面積公式を用いることができる理由を理解している。三角形の面積公式を理解している。高さが三角形の外にあっても、面積公式を用いることができる理由を理解している。三角形、平行四辺形の面積公式を理解している。

		積に帰着させて考える。 倍積変形した平行四辺形の底辺の長さ と高さに着目して、三角形の面積 公式を考える。 三角形、平行四辺形以外の図形 の面積を、三角形、平行四辺形の 面積の求め方を基に考える。	
--	--	--	--

上の表の , , … の数字は、「3 指導と評価の計画」の1時間目, 2時間目, … に対応することを示している。

3 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連				学習活動における具体的評価規準など
		関	考	表	知	
1	平行四辺形の面積の求め方を考える。 ・平行四辺形の面積の求め方を既習の図形 の面積の求め方に帰着して考える。					評価規準（カッコ内は評価方法）： ・平行四辺形の面積を既習の図形 の面積と関連付けて求めようとする。 （調べたり発表したりする様子 の観察） ・平行四辺形の面積の求め方を既習の 長方形の面積に帰着させて考える。 （調べたり発表したりする様子 の観察、ノートへの記述の観察） 十分満足できると判断される状況： ・長方形の面積で学習した内容を積 極的に生かし関連付けようとしてい る。 ・考え方や方法を分かりやすく筋道 を立てて説明している。 努力を要する状況の児童への手立 て： ・面積を求めることができる図形を 想起させ、平行四辺形との関連に 着目できるようにする。
2	平行四辺形の面積公式をつくり、面積 公式の意味を理解している。 ・平行四辺形の面積を求める公式を考 える。					評価規準（カッコ内は評価方法）： ・等積変形した長方形の縦と横の長 さに着目して、平行四辺形の面積公 式を考える。（学習活動の観察、ノ ートへの記述の観察） ・平行四辺形の面積公式を理解して いる。（ノートへの記述の観察、ペ ーパーテスト） 十分満足できると判断される状況： ・考え方や方法を分かりやすく筋道 を立てて説明している。 ・平行四辺形の底辺と高さが分か れば面積が求められることを理解 している。 努力を要する状況の児童への手立 て： ・等積変形した長方形の縦と横が もとの平行四辺形のどの部分にあ たるかに着目できるようにする。
3	高さが平行四辺形の外にある場合でも、 平行四辺形の面積公式を用いることが できることを理解する。 ・高さが平行四辺形の外にある					評価規準（カッコ内は評価方法）： ・高さが平行四辺形の外にあっても、 面積公式を用いて面積を求めること ができる。（ノートへの記述の観察、 ペーパーテスト） ・高さが平行四辺形の外にあっても、 面積公

	<p>る場合の面積の求め方を考える。</p>				<p>式を用いることができる理由を理解している。(ノートへの記述の観察, ペーパーテスト)</p> <p>十分満足できると判断される状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式を用いて, 面積を手際よく求めている。 ・平行四辺形の底辺と高さに当たる部分を的確に見いだしている。 <p>努力を要する状況の児童への手立て:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形の底辺がどこで, その底辺に対する高さはどこかに着目できるようにする。
4	<p>平行四辺形の高さを一定にして, 底辺の長さを変えたときの底辺と面積の関係を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さが一定の平行四辺形で, 底辺の長さを 1 cm, 2 cm, ..., 5 cm と変化させたときの面積を調べる。 				<p>評価規準(カッコ内は評価方法):</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さが一定の平行四辺形において, 底辺の長さとの関係にあるかを調べたり考えたりする。(学習活動の観察, ノートへの記述の観察) <p>十分満足できると判断される状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図, 表や言葉を用いて, 底辺と面積の変化の様子を的確にとらえ表現している。 <p>努力を要する状況の児童への手立て:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表を作らせ, 底辺の長さが 1 cm のとき面積がいくつになるかというように順序よく考えられるようにする。
5	<p>三角形の面積の求め方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の面積の求め方を既習の図形の面積の求め方に帰着して考える。 				<p>評価規準(カッコ内は評価方法):</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の面積を既習の図形の面積と関連付けて求めようとする。(調べたり発表したりする様子の観察, ノートへの記述の観察) ・三角形の面積の求め方を既習の図形の面積に帰着させて考える。(調べたり発表したりする様子の観察, ノートへの記述の観察) <p>十分満足できると判断される状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長方形, 平行四辺形の面積で学習した内容を積極的に生かし関連付けようとしている。 ・考え方や方法を分かりやすく筋道を立てて説明している。 <p>努力を要する状況の児童への手立て:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積を求めることができる図形を想起して, 三角形とその図形との関係に着目できるようにする。
6	<p>三角形の面積公式をつくり, 面積公式の意味を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の面積を求める公式を考える。 				<p>評価規準(カッコ内は評価方法):</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倍積変形した平行四辺形の底辺の長さとの高さに着目して, 三角形の面積公式を考える。(学習活動の観察, ノートへの記述の観察) ・三角形の面積公式を理解している。(学習活動の観察, ノートへの記述の観察) <p>十分満足できると判断される状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を基にして, 新しい公式を自ら工夫しつくり出している。 ・三角形の底辺と高さが分かれば面積が求められることを理解している。 <p>努力を要する状況の児童への手立て:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倍積変形した平行四辺形の底辺と高さが, もとの平行四辺形のどの部分にあたるかに着目できるようにする。
7	<p>高さが三角形の外にある場合でも三角形の面積公式は, 適用</p>				<p>評価規準(カッコ内は評価方法):</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さが三角形の外にあっても, 面積公式を

	<p>できることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さが三角形の外にある場合の面積の求め方を考える。 				<p>用いて面積を求めることができる。(ノートへの記述の観察,ペーパーテスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さが三角形の外にあっても,面積公式を用いることができる理由を理解している。(ノートへの記述の観察,ペーパーテスト) <p>十分満足できると判断される状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式を用いて,面積を手際よく求めている。 ・三角形の底辺と高さに当たる部分を的確に見いだしている。 <p>努力を要する状況の児童への手立て:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の底辺がどこで,その底辺に対する高さがどこかを考えられるようにする。
8 9 10	<p>三角形,平行四辺形の面積の求め方を生かして,いろいろな図形の面積の求め方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形,平行四辺形以外の図形の面積を工夫して求める。 				<p>評価規準(カッコ内は評価方法):</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形,平行四辺形の求積方法を活用して問題を解決しようとする。(学習活動の観察,ノートへの記述の観察) ・三角形,平行四辺形以外の図形の面積を三角形,平行四辺形の面積の求め方を基に考える。(学習活動の観察,ノートへの記述の観察,ペーパーテスト) ・三角形,平行四辺形の面積公式を活用して面積を求めることができる。(学習活動の観察,ノートへの記述の観察,ペーパーテスト) ・三角形,平行四辺形の面積公式を理解している。(学習活動の観察,ノートへの記述の観察,ペーパーテスト) <p>十分満足できると判断される状況:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した内容を積極的に生かし関連付けようとしている。 ・これまでの学習を基にして,新しい問題解決の方法を自ら工夫し考えている。 ・いろいろな図形の面積を求める過程で,面積公式を手際よく用いている。 ・面積公式を用いるには,何が分かればよいのかを理解している。 <p>努力を要する状況の児童への手立て:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形,平行四辺形の面積を求める方法の意味を振り返り,意味理解を深めるようにする。 ・三角形,平行四辺形以外の図形を,面積を求めることができる図形に分割することができないかどうかに着目できるようにする。

4 各時間における観点別評価

授業の毎時間に4観点すべてにわたって評価を行うのは,一般には難しいことである。そこで,各時間のねらいに照らし合わせて,1~2観点を重点的に評価する観点として設定することとし,それを「指導と評価の計画」の中で「 」を付けて示した。

各時間における観点別評価は,それぞれの時間のねらいに照らしながら,ある観点について重点的に評価するのが実際的な進め方である。それと同時に,ある観点についての各児童の状況が,指導を進めるにつれて連続的に変化し育っていく様子をとらえるのも重要である。そうした点にも配慮して,観点別評価については,各観点ごとの評価の記録を毎時間,少しずつ継続して累積していく必要がある。

8~10時間目には,7時間目までの学習のまとめを行う。そのため,4観点すべてに「 」が付いている。これは,4観点のそれぞれについて評価とその記録を行うことを意味している。単元のまとめの段階で,一定の内容について児童が学習した後に,その内容が全体として定着し,安定している状況にある

ことを見るのが重要だからである。また、単元でのこれまでの学習指導の過程において、評価の記録が十分に取れていないこともあり得るので、児童の状況をあらためて確認するなどして、単元における評価記録の補充をすることも意図している。

5 観点別評価の総括

本単元の各時間ごとに、評価の記録をとっていく。十分満足できる状況と判断されるときはA，おおむね満足できる状況と判断されるときはB，努力を要する状況と判断されるときはCとして記録していく。

そして、単元全体を通して、それぞれの観点について、Aが半分を超えていれば、その単元における観点別評価は、十分満足できる状況と総括する。また、それぞれの観点について、Cが半分を超えていれば、努力を要する状況と総括する。どちらにも該当しない場合は、おおむね満足できる状況と総括する。

例えば、本単元の各時間において、ある児童の評価の記録が下の表のようであったとすると、本単元における観点別評価の総括は、表の最下段のようになる。

また、8～10時間目の状況がとくに優れている場合には、その点を総括に加味する場合もある。

時間	観点別の評価			
	関心	考え	表現	知識
1	B	B		
2		B		B
3			B	B
4		B		
5	A	A		
6		A		A
7			A	A
8～10	A	A	A	A
観点別評価の総括	A	B	A	A

この外にも、単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが求められる。